

令和元年 7 月 1 日

創立記念日（7 月 1 日）にあたって

県立篠山鳳鳴高等学校

建学の精神

『伝統』 = 『不易』 なるものを受け継ぐ

明治 9 (1876) 年、青山忠誠公により「私立篠山中年學舎」が創立され、今年で 143 年目を迎える。開校以来、本校教育の源流は次の 5 つに基づいている。

① 第一 明和 3 (1766) 年、藩校『振徳堂』創建 翌年『學規（教育方針）』制定

1. 学を志す者は静肅・遜讓であれ
2. 学に地位や身分の区別なく、庶民や他藩の志あるものの入学を拒まず
3. 生徒の個性・能力を的確に把握し、その能力を伸長させよ

② 第二 『私立篠山中年學舎』創建 校祖 青山忠誠公の精神

明治 9 年忠誠公 18 歳の折「篠山に中学校を起こしたい」と決意。在郷の安藤直紀ら 14 名により「私立篠山中年學舎」を創建。忠誠公の「一＝忠恕（真心をもって事にあたる）」を、生涯にわたり貫くと言う『一以貫之』を中年學舎教育の真髄とする。

学校経営の範を、慶應義塾創設者の福沢諭吉に求める。福沢諭吉は、英語および物理・化学の二人の教師を篠山に派遣する。

③ 第三 鳳鳴を冠する『私立鳳鳴義塾』

明治 16 (1883) 年暮に校舎全焼。翌 17 年中学校設備規則制定により、一県一中学により廃校の危機に直面。忠誠公「学校は焼くとも教育を焼くな」と激励。私学としての存続に奔走。「鳳凰が鳴く時には、傑出した偉人が出現する」という意の鳳鳴を冠する「私立鳳鳴義塾」として中学教育を維持。

④ 第四 明治 45 (1912) 年 篠山城大書院で「郡立高等女学校」開校

女学校もまた忠誠公の遺訓『一以貫之』の精神を貫いて創建。教育標語支柱は『人格第一』。『一以貫之』の精神は、「中年學舎～篠山中学校～鳳鳴義塾～県立鳳鳴中学～県立鳳鳴高校」ばかりか、「郡立高等女学校～県立篠山高等女学校」にも連綿と引き継がれていく。

⑤ 第五 戦後昭和 26 (1951) 年 篠山鳳鳴高等学校『生徒信条』を制定

我等は本校の伝統に誇りをもち、学徒の重大な使命を自覚するとともに、品性を高め有為の人材たることを期し、ここに次の信条を設けて座右の銘とする。

『生徒信条』 一、勉強第一 一、正義の実行 一、身体の強健

生徒信条は生徒各自の座右の銘とするものであって、建学の精神に基づく国家有用の人材養成、質実剛健の気風の高揚に努めるものである。各自が信条の正しい理念を確立し、それに基づく生活を設計して日々の実践に移すことを望むものである。

本校教育の底流にあるこれらの『不易』は、時代が移り変わろうとも、わらわれはしっかりと受け継がねばならない。